

シリーズ(その1)

脱炭素×経済成長のまちづくり 「安来市再生可能エネルギー地産地消 ビジョン(仮称)」の策定に向けて

安来市は令和4年3月1日に、2050年までに地球温暖化の原因となる二酸化炭素(温室効果ガス)排出量を実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

この宣言の実現に向け、温室効果ガス排出量を減らし、より良い地球環境を次世代の子どもたちへ引き継ぐことは、これまで恩恵を受けてきた私たちの責務であると言えます。

地球温暖化は、猛暑や豪雨などの異常気象、食糧不足、健康被害など、私たちの暮らしにさまざまな影響をもたらします。

市では現在、家庭、事業所などで、電気やガスなど化石燃料由来のエネルギーを市外から購入しています。これを、再生可能エネルギーを市内で



山口県 山口市 山口市再生可能エネルギー地産地消ビジョン(仮称)の策定に際して、関係機関や市民の皆様からご意見を伺い、ご意見を踏まえ、このビジョンを策定いたしました。ご意見をいただいた皆様、関係機関の皆様、ご協力いただき、ありがとうございます。

問い合わせ
環境政策課
☎ 23-3098

生産し、消費する「再生可能エネルギーを地産地消する」状態に変えることが温室効果ガスの削減、さらには地域経済の好循環に繋がると考えています。

そのための指針となる、「安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン(仮称)」を令和5年3月までに策定します。

出来上がったビジョンは、行政だけでなく、市民、事業者の皆さんと一緒に取り組んでいく必要があります。

次号からビジョン策定までの経過をシリーズでお伝えしていきます。

日本遺産を巡るたたら の音色 日本遺産の 構成文化財 連載⑩



今号は、たたら製鉄がモチーフともいわれるヤマタノオロチ退治神話を伝える神楽と神話にまつわる伝承地を紹介します。

雲南市には、槻の屋神楽、大原神職神楽、海潮山王寺神楽、海潮神代神楽、日登神楽、佐世神楽があります。国の始まりを物語る神話の舞台となり、古代より神々が宿る地とされてきました。今日でも地域の祭りや神事などで、神話をもとにした演目が舞われて人気となっています。

ヤマタノオロチ退治神話では、「ヤマタノオロチ(以下、オロチ)は砂鉄採取の影響でたびたび氾濫する「斐伊川」をイメージし、オロチの尾から出た「天叢雲剣」は、たたら製鉄によって生まれる日本刀を象徴し、「イナタヒメ」は砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立て、伝えられています。



退治舞。鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立て、伝えられています。これを現

代に伝承する神楽の世界は、たたら製鉄が当時の生活と文化を切り離すことのできないものであったことを表しています。

そして、スサノオノミコトの神話の伝承地が、雲南市には次のとおり多数存在しています。

●須我神社：スサノオノミコトがオロチを退治して、クシナダヒメと結ばれて建立したとされ、「日本初之宮」といわれています。

●印瀬の壺神：境内にある壺は、スサノオノミコトがオロチ退治のときに、「八塩折の酒」を入れた8つの壺のうちの1つと伝えられています。

●天が淵：斐伊川上流にある天が淵は、オロチが住んでいた場所といわれて蛇帯と呼ばれる青と赤の筋が入った石があり、オロチの足跡と伝えられています。

●八本杉：スサノオノミコトがオロチ退治をしたあと、オロチの8つの頭を埋め、その上に8本の杉を植えたといわれています。斐伊川の氾濫により幾度も流失し、現在の杉は、明治初頭に植えられたものです。

ヤマタノオロチ退治神話ゆかりの地を訪れて、温泉、グルメも楽しんでみてはいかがでしょうか。

問い合わせ

和鋼博物館 ☎ 23-2500

